

学校便り

第337号
平成27年2月2日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

まぐらの小三治

校長 鈴木 隆志

古典落語の大御所、十代目・柳家小三治さんを御存知でしょうか。昨年10月に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された当代きっての噺家です。先月、池袋の寄席で二之席興行のトリを務める小三治さんの『小言念仏』を楽しんできました。私の出身高校の先輩ということもあって、若い頃から注目していたのですが、飄々とした語り口は相変わらずです。名人芸に磨きがかかり、出囃子に合わせて高座に上がってきただけで、笑いの渦が巻き起こります。「まぐらの小三治」という異名のとおり、「まぐら」（噺の導入）が抜群に面白いのです。まぐらを楽しみに通うという常連もたくさんいます。先日の高座も、まぐらで笑わせられながら、知らず知らずのうちに本題の『小言念仏』の世界にぐいぐいと引き込まれてしまいました。小三治さんの信念は、本物の芸とは無理に笑わせるものではなく、客が思わず笑ってしまうものであり、「あざとい形では笑わせない芸」を目標にしていると聞きました。名人芸とはこういうものだと思えて感じさせられました。

私は子供の頃、母親から毎日小言ばかり言われて育ちました。褒められたという記憶は、あまりありません。母親のもつ尺度に合わない子供だったからかもしれません。「言葉で伝えることは、言葉ではなく心である」と考えれば、小言も、子を思う親の愛情表現だったのでしょう。

教育でも子育てでも、「まぐら」は大切です。知らず知らずのうちに、子供たちを学習の本題に引き込んでしまうような、あるいは、まぐらのうちに子供たちの状況をつかみ、よりよい方向へ導いていくような、心がきちんと伝わる、そんな名人芸を身に付けたいものです。

「平成26年度練馬区いじめ防止標語」【小学校1・2・3年生部門】最優秀賞

本校2年1組・佐々木健太さんの標語が、見事『最優秀賞』に選ばれました。1月26日、練馬区文化センターで行われた「練馬区いじめ防止実践事例発表会」にて、表彰されました。

「だいじょうぶ？」 力をかすよ ともだちのもの

友達への思いやりにあふれる、すてきな作品です。健太さんは、普段からとても優しい心をもった光っ子です。今年の夏には、むつみ台団地に迷い込んだカルガモの子供を、お父さんと一緒に助け、光が丘公園の池に連れ戻してあげていました。学校の中でも、友達といつも仲良くして、「うん、いいよ」と言って譲ってあげることができる光っ子です。そんな優しい心から生まれた標語ですが、私は、健太さん本人の心だけではなく、学級や学年、そして学校の光っ子たち全員が、優しく仲良く接しているからこそ生まれた標語なのだと思います。ですから、健太さんがいただいた『最優秀賞』ではありますが、光っ子たち全員でいただいたような気持ちでいます。

光っ子たち一人一人が、この標語どおりに、友達に優しく思いやりをもって接し、いじめが起こらない学校を創っていきます。